

■特集

産学官連携で北海道に元気を

「産」と「学」を繋ぐ連携拠点としての「道総研」の役割について紹介していただき、これまで馴染みの薄かった「道総研」への理解が少しは出来たように思われます。どうもありがとうございました。この特集は第 124 号から継続されており、夫々の立場の方からの様々なご提案や実績などを興味深く読ませていただいております。

これからも産学官の連携を深めて北海道のためにお力添えをよろしくお願いいたします。

(MK)

■報告

食産業研究会

平成 24 年度 第 2 回定例会「食」の現場見学会

いま北海道の市町村は産業の低迷と少子高齢化により人口減が進み、生き残りにかけてそれぞれが知恵を出し合い苦闘している。かつて鯵漁で栄えた寿都町においても例外ではない。漁獲物が鯵からホッケに変わり、人口もこの 10 年で約 15% 減少しているという。

今回のレポートで、「食」についての取り組みが紹介されたが、寿都町では水産業をメインに水産物の加工販売、イベントの開催、漁業体験ツアーなど地域活性化の取組みが色々行われており、その努力の跡がうかがわれる。

ホッケといえば私の住んでいた地方では、戦後の食糧難の時代から魚屋の店頭に並んでいたが、当時は鯵が全盛でホッケは冷蔵技術が発達していなかったため、その匂いが強烈で味も悪く、とても食べられる魚ではなかった記憶がある。しかし今は美味しい魚の部類に入る。寿都町では「ホッケめし」が人気であるとか、一度味わってみたいものである。

現代は飽食の時代と言われ、国内外からの豊富な

食材が氾濫している。しかし「食の未来」を考えたとき果たしてこのままで良いのであろうか。我々は食生活の無駄や洋風化を見直し、食糧自給率を上げるため国産品の水産物や農産品をもっと食べる努力が大切ではないか。若い世代に対しても、「食育」を通じてこのことを伝えていくべきではないか。今回のレポートを読んで感じた次第である。

(K. T)

食産業研究会の寿都町における現場見学会の報告です。同研究会の前身である地域産業研究会から 10 年以上も交流を続けている寿都町の現場見学会と意見交換会が行われたということで、研究会の活発なご活動に敬意を表するものです。外部とつながる技術士会の研究活動は、技術士会の PR はもちろん社会貢献にもつながる有意義な活動と考えます。同研究会の益々のご活躍を期待しています。

(Y. K 血液 AB 型)

第 24 回防災セミナー

「北海道における防災・減災のあり方」

3 名の方からの講演内容は、東北大学の桑原先生は支援サポートのデータの共有化の重要性について、室蘭工大の前田先生は心のケアは被災者、支援者全ての人に必要なこと、道庁の上谷先生は減災を考慮したまちづくりとのことでありましたが、読んでいて特にデータの共有に興味を持ちました。実は、昨日の(2013 年 3 月 3 日(日))NHK スペシャル「いのちの記録」を未来へ～震災ビッグデータ～を見ました。概要は～ 3.11・あの日の記録 人々はどう動いたのか？ 超渋滞はなぜ起きたのか？ 防災の常識が変わる～であり、東日本大震災で得た関係各機関が持つ膨大な災害情報＝「震災ビッグデータ」を利用して「新たな防災ツール」を構築しようとしているプロジェクトの報道でありました。

「防災の常識が変わる」とあるように、「震災ビッ

グデータ」から「防災の常識」が「どの様が変わって行くのか」を知ることが、講演された桑原先生の支援物資の集積・配給システムや上谷先生の複数の避難経路、避難場所、防災機能のバックアップ機能等の支援や対策を、生きた、身近なそして具体的な支援・対策とする事が出来るであろう事と、またそれが技術者の責務であると思いました。

S. H

■会員のひろば

私のお勧めコーナー

札幌ドームのそばの「ツキサップじんぎすかんクラブ」が紹介されていましたが、私も昔よく行きました。勤務先が近かったこともあって、暑気払いをよくやりましたし、何かお祝い事があるとぶらぶら歩いて行き、ジンギスカンとビールをたらふく食しました。報告にはずいぶんおしゃれな食べ物がいっぱいあることを知り、メニューなど見たこともない私にはとても驚きでした。

特に写真に出ていたお得感いっぱいの 600 円の生ハムはクリスマス限定のようなので、その頃行ってみようと思いました。また、ワインがジンギスカンに合うなんて考えてみたこともありませんでした。今度試してみたいと思いますが、きっと「お姉さ～ん、肉と野菜とビールをピッチャーで持ってきてえ」といつもの大声で叫んでいることでしょう。

(いつものおせっかい男 MS)

■活動レポート

エンジョイ・サイエンス研究会

第 7 回環境科学展・体験実験のサポート報告

第 7 回の環境科学展(札幌市青少年科学館)での寒地土木研究所との連携・協力事業の報告《土も息をしている!》を楽しく拝読させていただきました。

この科学展での入場者が二日間で 4,403 名と多数の参加者への出前授業を体験できたことは研究会としても貴重な財産となられたかと思います。また、今回は寒地土木研究所の職員の方が講師で、そのサポート役として参加されているようでした。将来的には、双方で講師役とサポート役を分け合って担えるような態勢になると素晴らしいですね。

教育分野での成果というのは、きっと長い時間を要することでしょう。子どもたちがちょっとしたことをきっかけにして科学に興味を抱くようになることもあります。このような地道な活動を継続していくことが大切なのですね。皆さんの益々のご活躍を祈っております。

(継続は力なり：MK)

リージョナルステート研究会

「第 15 回北東 3 地域本部技術士交流研修会」への参加報告

本研修会でのご発表を所用で聞き逃していたため、研修会報告を興味深く拝読させていただきました。

東日本大震災を契機としてエネルギーのあり方について考えさせられることも多くなってきております。そんな中でリージョナルステート研究会・循環技術システム研究分科会の循環型社会システムの構築に向けた取り組みが紹介されました。再生可能エネルギーの有効利用についての現状や課題などが整理され、今後、どのように実現してゆくのかをより具体的に議論していくことが打ち出されております。本当にタイムリーな話題提供であり、今後の活動も期待しております。

(俄か循環研応援団：MK)

エゾシカ研究会

エゾシカ肉の試食会報告(養鹿肉とハンター肉)

エゾシカを北海道の有用な資源として活用しようとするエゾシカ研究会の研究活動は、北海道技術士会の大きな成果になっていると思います。今回は養鹿肉とハンター肉の食べ比べということですが、ハンター肉の栄養状態が個体によりまちまちで、養鹿により品質管理が可能になるのではないかとのことです。養鹿によるエゾシカ肉の品質向上や食味の改善、さらには道産品としてのブランド化や認知度の向上など、今後益々のご活躍を祈念しております。

(Y. K 血液 AB 型)